



地域を支える

807

一般社団法人コレカラ・サポート

高齢者と家族の相談所・さいたま市

財産管理や相続の一括サポート

身よりのない高齢者、家族を亡くした人などの財産管理や相続に関する一括サポートを行っているのが、さいたま市を中心に活動する一般社団法人「コレカラ・サポート」だ。子どもがいない高齢夫婦の財産管理、親を亡くした後の相続手続きなど扱う相談はさまざま。このような問題を解決するには通常、税理士、弁護士、司法書士など、専門家の関わりが必要となることが多い。千葉晃一代表理事は「1カ所で相談できるところをつくりたかった」と活動開始のきっかけを振り返る。

コレカラ・サポートに相談がある場合、内容に応じ、弁護士や税理士などの専門家がスタッフとペアになり、相談者の自宅を訪問して問題を解決していく。専門家を紹介して終わりではなく、チームとして対応していくのが特徴だ。1回の訪問で解決することもあれば、年単位で相談者に寄り添っていく場合もある。

相談事例にはどんなものがあるのか。以下は実際にあった事例だ。

依頼者は、80代の母親と同居する60代の長男。父親は既に亡くなった。長男には病気があり、自分で母の介

護をすることが難しい。介護施設に母を入れるため、実家を売却して入居費用を工面したい。ところが、実家の土地の名義は母親だが、建物の名義は母親の再婚相手のもので、その男性も既に亡くなっていた。家を売却するには、建物の名義を変更する必要があるので、それには男性方の親族の承認が必要だ……。

このようなケースで、コレカラ・サポートでは、権利関係の確認や利害関係の調整、手続きなどを一括して行う。

家族を亡くすことによる、精神的な負担は計り知れない。依頼されたことだけを行えば手続きそのものは終了し、財産面での解決はできる。

しかし、コレカラ・サポートは、メンタル面のケアをしながら、「相手困っていることをなくす」ことまで目指す。先の事例では、その後、相談者の長男と母親が亡くなり、家族として残された長女への支援が続いている。

相談者の中には精神的なダメージが大きく、鬱(うつ)状態の人もある。相談を受けることはカウンセリング的な要素も大きい。残された家

族の介護の問題など、「相談内容を掘り下げていくといういろいろなところに広がっていく」という。

コレカラ・サポートは「『人』ではなく『家』という考え方」を大切にしていく。亡くなることで、「個人」としては終わりだが、その個を取り巻く家族は存続する。「終活」という言葉が流行しており、問題を個人で解決しようとする風潮があることを千葉さんは懸念する。

「自分が死んだ後できるだけ周りに迷惑を掛けたくない」と言う人は多い。そんな人に対して千葉さんは「大丈夫、迷惑は絶対掛かりません」と声を掛ける。「掛かってもいいように、家族と仲良く、人とのつながりをつくるということをやっておいてほしい」という。

複雑な事情が絡み合い、関係者それぞれ考えがぶつかり合うなど深刻な相談内容も少なくない。「自分だけで抱え込まず、頼れるものを使って、自分の人生これからなんだと少しでも前向きになってほしい」。

「コレカラ・サポート」という団体名にはそんな思いが込められている。

【野口あゆ・さいたま支局】